



京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

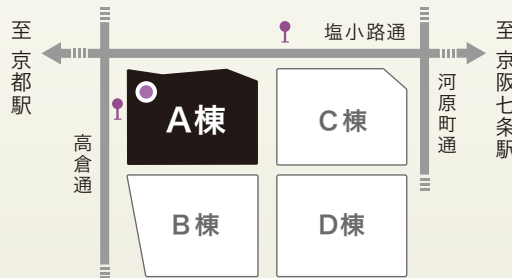
令和6年度 前期

伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

「日本伝統音楽の講座に参加するのは初めて」という方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

聴講無料・申込不要 / 定員 各回50名



会場

京都市立芸術大学
伝音セミナールーム

京都市下京区下之町57-1 (A棟1階)

- 地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車 徒歩6分
- 京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
- 市バス 4・7・16・81・205・南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ

構内に駐車場はございません。
各種公共交通機関をご利用のうえご来場ください。

第一回 6月20日(木) 能楽の「^{りょちゅうかん}呂中干」形式をさかのぼる

14:45~16:15

講師：藤田 隆則 日本伝統音楽研究センター教授

能楽の中には、主人公が、謡ではなく笛の伴奏で舞う部分があります。代表的なものに「序ノ舞、神舞、男舞、中ノ舞、早舞」がありますが、これらはいずれも「呂中干」形式、つまり基本となる旋律型(地)が「中、干、中、呂」の四句で構成される形式をもっています。「呂中干」という呼称の由来やその起源も、これまでほとんど研究されていません。ひとつの古い資料を手掛かりに、起源をたずねてみようと思います。

第二回 7月25日(木) 江戸期の流行歌を歌ってみよう

14:45~16:15

—常磐津への摂取例から—

講師：常磐津 若音太夫 (竹内 有一) 日本伝統音楽研究センター教授

江戸時代、人々が親しみ口ずさんでいたであろう様々な流行歌は、常磐津節にも摂取されています。いくつかの事例について、歌の由来や引用された理由を紐解きながら、実際に三味線の音によって声に出してみることで、その特徴をつかみます。

第三回 8月24日(土) 地方に根付いた雅楽のありよう

13:00~14:30

—伝承の分化と音楽スタイルの進化—

講師：田 鞆 智志 日本伝統音楽研究センター准教授
上野 正章 日本伝統音楽研究センター共同研究員

動植物が、同種であっても地域ごとに少しずつ異なる特徴がそなわっているように、音楽もまた、ある土地に根付き、そして長い歳月にわたって伝承されると、それぞれの土地固有の音楽の特徴があらわれてきます。令和3年度より、そのような雅楽伝承の例を調査してきました*。今回は、これまでの調査のなかから、興味深い事例を、映像交えながら紹介します。

* 共同研究「様式分化をとげた雅楽を対象とする伝承実態調査」中間報告

第四回 9月26日(木) フリー・リード楽器を知る:笙から生まれた楽器たち

14:45~16:15

講師：齋藤 桂 日本伝統音楽研究センター准教授

中国の笙の仕組みをヒントに、19世紀にヨーロッパでハーモニカやアコーディオンが誕生しました。自由に動くリードを音数分そろえたこれらの楽器はフリー・リード楽器と呼ばれます。発音が容易なこともあり、これらの楽器は世界各地の民俗音楽に取り込まれて、独自の音楽的発展を遂げます。本セミナーでは笙から日本を含む世界各地のアコーディオンまで、フリー・リード楽器の展開を紹介いたします。